

松浜の池のオオモノサシトンボ

佐藤 祥子

阿賀野川河口の右岸側に、松浜の沼とかひょうたん池と呼ばれている池があります。この池は淡水の砂丘湖で、海側に海浜植物群落が、陸側にニセアカシアなどの林が、そして池の水際にはヨシの群落が広がっています。

普段は釣りをする人が訪れるほかは人影もまばらなこの池には、最近めったに見られなくなった小動物がたくさん生息しています。特に夏から秋にかけては多種のトンボが飛びかい、まさにトンボの楽園のようになっています。

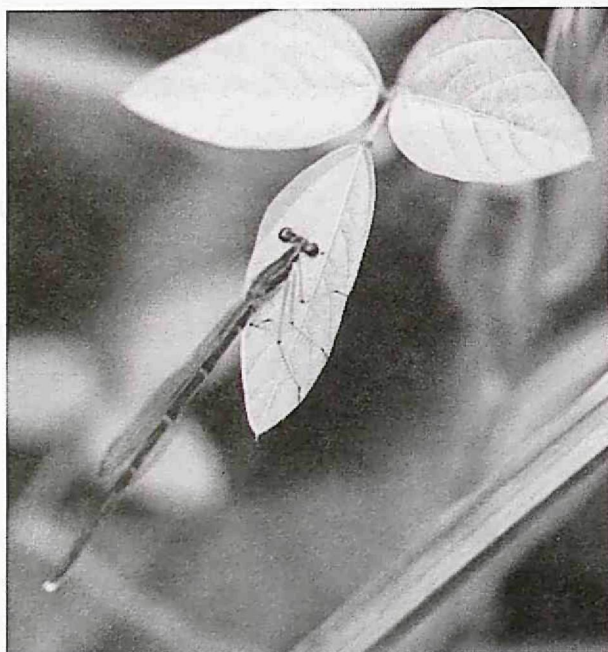
その中に、ここがおそらく県内最後の生息地であろうといわれている、オオモノサシトンボというトンボがいます。このトンボは体に物差し目の盛りのような淡色斑があるイトトンボ群の一種で、同属のモノサシトンボに比べてやや暗い、地味な色合いをしたトンボです。大きな川の河口にしか生息しておらず、国外では揚子江流域、国内では信濃川と利根川の下流域と宮城県の一部にしかいないと言われてきました。新潟県ではジュンサイ池や鰐淵など5か所の池で生息していましたが、水質悪化や干拓によっていずれも絶滅したとされてきました。そのトンボが、近年信濃川な

らぬ、阿賀野川河口のこの池で発見されました。

うっそうとしたヨシ原の中に、ゆらゆらと頼りなげに飛ぶ姿を見ると、こうしていつからここに住み着いていたのか、その生命のつながりが不思議な気さえます。県内で他に同種はもはや生息していないのを知っているのかいないのか、それでも毎年夏になるとオオモノサシトンボはそこに姿をあらわします。人間には調整しようのない環境のバランスが、そうしたトンボも生かし続けているのでしょう。

まだまだ人間には自然に学ぶべきことがたくさんあります。こうした自然を、いつまでも残していきたいものです。

松浜トンボ愛好会（会長：高山 忠、事務局：新潟市松浜5-7-5 佐藤方）では、オオモノサシトンボをはじめとしたトンボ類や他の動植物の観察と、池周辺の環境保護を目的として、観察会や勉強会などの活動を行っています。興味のある方はご連絡下さい。（tel. 025-259-6605 佐藤）



【写真1】 オオモノサシトンボ



【写真2】 植物観察会(1995 5 13)